

## えひめ水産イノベーション地域だより

発行：公益財団法人 えひめ産業振興財団  
えひめ水産イノベーション創出地域  
TEL 089-960-1153 FAX 089-960-1105  
E-mail : sakamoto@ehime-iinet.or.jp  
http://www.ehime-iinet.or.jp/inove/

第17号 平成26年5月7日発行

### 5月です。ゴールデンウィークは終わりました。

皆さん、ゴールデンウィークを如何に過ごされましたか。旅行？ゴロ寝？それとも仕事？

ゴールデンウィークとは、4月末から5月の初めにかけて休日が続く期間のことで、今の時期には、日常会話でもよく使われる言葉です。

ところが、この「ゴールデンウィーク」という言葉は、昭和20年代に映画業界が作った造語であることから、NHKや一部のマスコミでは、「大型連休」とか「黄金週間」と言ったり、書いたりし、「ゴールデンウィーク」は使わないのだそうです。その理由は、元々映画業界の言葉で業界の宣伝になるとの配慮や休暇の取れない人からのクレームがあること、飛び石連休になった場合に1週間以上の長期におよび「ウィーク」というのがおかしいとのことなどから総合的に判断してのことだそうです。

“言葉”ひとつにしても、**立場**によって使い方が難しいものなのですね。ところで「**立場**」。“**苦しい立場に立つ**”とは言うが“**楽しい立場に立つ**”とは言わないし、“**負けたら立場がない**”とは言うが、“**勝ったら立場がない**”とは言わない。「**立場**」とは、逆境に立たされた時のマイナスイメージの言葉なのではないでしょうか？

えひめ水産イノベーション戦略支援プログラムも事業3年目。ゴールデンウィークも終わり、**立場**を考えて、しっかりと事業の推進に取り組んで参りますので、引き続きご支援・ご協力よろしくお願ひします。

### 26年度人材育成講座の開講

4月26日、宇和海における水産業の6次産業化を担う人材の育成を目指して2年次目の「**水産イノベーションスキル修得講座**」の第1回目の講座を開催しました。

今年のこの講座は、愛媛大学が受講生を公募し、水産関係者を主体に25人が参加して、来年3月までの間、毎月1回(土日2日間)12回にわたり宇和島市にある愛媛大学宇和島エクステンション[宇和島市住吉町872-1]を中心に開講することにしております。

リーダーの育成、漁業の概要、水産物の加工、流通経済、商品開発等の多岐にわたる水産関係の講座を設けております。

今回の講座は4月26日-27日の2日間にわたって開催され、開講式では受講生の自己紹介があり、続いて愛媛大学南予水産研究センタ

一長山内皓平氏による「水産業の振興と地域の活性化」の講義と同センター客員教授で、この講座の実施責任者の鶴見武道氏から1年間の講座の進め方の説明や人づくり、仲間づくりに主眼を置いた地域資源を活用した体験学習等が行われました。

受講生の皆さん、1年間、頑張って下さい。そして、宇和海の水産業の6次産業化の担い手としての活躍を願っております。

今年度の水産イノベーションスキル修得講座には、「えひめ水産イノベーション創出推進協会」及び「宇和海水産構想推進協議会」を構成する市町から4名、金融機関から4名の参加をいただきました。

関係者の皆様のご支援・ご協力を感謝申し上げます。また、受講生の皆様には日常業務が大変お忙しい中、参加頂きありがとうございます。



講義をする  
山内センター長

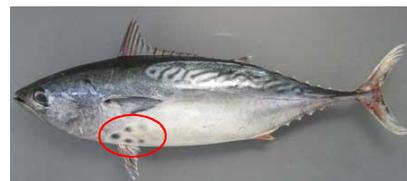


熱心に聴講する受講生

### スマの研究予算について

愛媛大学南予水産研究センターが戦略支援プログラムで取り組んでいる研究の1つに「マグロ類の完全養殖を目指した基盤研究」があり、新たな養殖魚種として「**スマ**」養殖の宇和海での可能性について研究しております。

昨年度から、愛媛県では、宇和海の魚類養殖業者の経営改善を図ることを目的に、新たな養殖対象魚として有望な「**スマ**」の養殖技術の確立を目指して、県と愛媛大学が共同研究をしております。今年度も「新たな養殖魚種生産技術開発試験費」として3,753千円が予算計上されました。



スマはカツオの仲間、胸鰭の下に黒い斑点があることから「ヤイト(灸)」と呼ぶ地方が多い。愛南町では「オボソ」と呼んでいる。大きな群れを作らないため、まとまって獲れることがなく、市場にはあまり出回らない魚とされている。